

国語

令和六年度入学試験問題

受験上の注意

- 一、監督の指示により、受験する科目の解答用紙を使用してください。
- 二、解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
- 三、問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
- 四、国語の問題は、選択問題があるので、下記の【表】の指示に従い解答してください。
- 五、国語の問題は、二～四十ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。
- 六、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
- 七、質問、その他用件があるときは、手を挙げて合図してください。
- 八、試験時間中の退場は認めません。
- 九、試験時間は六十分です。
- 十、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

【表】 下記の印に従って解答してください。

○印… 必答 △印… いずれか一つ を解答してください	共通問題	一	二	選択問題	三		
		(現代文)	(現代文)		ア (現代文)	イ (古文)	ウ (漢文)
全学部		○	○		△	△	△

一 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

人は子供のときから「自分」を常に確かめ、自分が有利になるように行動する。本能的な欲求を満たす行為以外に、もっと戦略的ともいえる知恵を巡らせるのも、幼いときからの普通の行動パターンといえる。それも、「自分」を中心に認識している証拠である。

A □、他者とのコミュニケーションが次第にレベルアップし、相手が自分をどう認識しているのか、ということをやがて考えるようになる。これは、他者から自分に向けられた言葉や態度から想像するものだ。「彼は僕をこんなふうに見ているのではないか」という個人を基準とした想像から発展して、「みんなから僕はどう思われているのだろう」という集団の中の自分の位置を B □的に捉えるようになる。さらに、現在の位置づけではなく、「こうすれば、僕は彼に認められるはずだ」「みんなから、こんなふうに見られる人になりたい」というような自分の将来像を、他者の認識として思い描くようになる。これは、自分がなりたい「自分」というよりは、他者に認識されたい「自分」である。

C □、という行為も、他者が自分をどう認識しているのか、という想像が原因となる場合が多い。「とりあえずこう言うっておけば、彼は自分をこう思うだろう」という想像の上に生まれる。他者から見た「自分」を創作（捏造）しているわけである。【I】
なにかの利益を得るために、他者に従ったり、甘えたり、媚を売ったりするような行動は、人間だけでなく動物も普通にするところであるが、動物の場合は、その場限りのもので、「今、相手を怒らせるのはまずい」という危機感に根ざしているだろう。これに対し、人間の場合には、少なからず将来的な展望を持っている。すなわち、「D □」という予測能力があるため、動物よりは高等な想像力に基づいている。

成長し、社会との関わりを深めるほど、「自分」は、想像上の他者の認識による位置づけに重点を置く割合が高くなる。田舎で家族だけで暮らしていて、他人と会うことが減多にない、というようなキョクタンに社会と没交渉な生活をすれば、こういった感覚はやや遅れるかもしれないが、一般には、十代にはほとんどの人間が同じような「他者による自分」感覚を持つのではないか。

E、子供から大人になる途中で、「自分」は、自分が意識しているだけのものではなく、他者から認識されている（と想像する）イメージが大部分を占めるようになる。

このとき「他者」が、大勢であるか、生活圏内の数人であるか、もしかしたら、家族だけなのか、あるいは特別に意識する（大好きか、大嫌いかの）特定の個人だったり、それとも実在しないまったくの想像上の人物だったり、範囲も程度もさまざまとは思うけれど、他者の意識を通して想像した自分であることは共通している。【II】

もちろん、この他者経由の「自分」が大きくなっても、自分から見た本来の「自分」が消えてしまうわけではない。どんな生活をしていても、周囲に他者がいない空間で自分一人だけの時間を過ごすことがあるはずだ。そのときに、「誰も見ていない」状態を経験できる。自分だけが知っている「自分」を確認できる。

これと同様に、自分の思考も、他者には知られないものだ、ということがわかる。何を考えても、それを人に知られることはない。ごく幼いときに、人はそれを理解する。大人は、「嘘うそについてもわかりますよ」と言う。まるで頭の中が見えるような口振りだが、本当は全然わからないことを子供は知るのである。

このようにして、自分(1)しか知らない本来の「自分」は、わりと簡単に「隠せる」ことがわかってくる。そして、他者から見た「自分」とそれが違っていても、特に問題は生じない。人がいるところでは、他者向けの「自分」を演じていけば良い。他者からこう見られたい、という「自分像」をその場では装っていれば良い。本当の自分はそれとおりでなくても、ある程度は誤魔化ごまかすことができる、ということを子供のうちに学ぶ。【III】

当然ながら、この両方の「自分」の間のギャップは、それほど大きくはできない。何故なら、装うことに物理的な無理（矛盾）が生じる場合が多いからだ。これは、「嘘」の一般化が認識されれば、ほとんどの他者が言葉だけでは信じてくれなくなるためである。相手が嘘を知らない年齢ならば、言葉だけで自分を装うことができるが、ある程度の知的レベルに達すれば、なにか証拠を見せないかぎり認めてもらえない。他者に自分はこう思われたい、という自分を装うにしても、それが能力的に不可能であれば実行できない。スポーツマンを装いたくても、実際に秀でた運動神経がなければ認めてもらえない。勉強ができる人を簡単に装うこ

とも難しい。強そうに装うことはできても、実際に喧嘩けんかをして相手を負かさなければ、そのうち化けの皮が剥がれてしまう。

【Ⅳ】一般に、他者から見た「自分」は、本来の「自分」よりも高いところにある。「高い」というのは、自分の認識として価値が高いという意味だ。自分本来の価値をなるべく低く人に認識させるように誤魔化す例は、普通はあまりない。これは、「謙遜」とか「謙虚」というような美德の一つであって、日本の武士道にも通じるものだが、おそらく、「反語」⁽²⁾のような強調手法が起源だったのだろう。それ以外には、自分を低く見せることで相手に自分を見くびらせ、油断させることで結果的に有利に働く、というような例外があるだけである。あくまでも最終的に有利になるための戦略だ。基本的にはすべて「自分」の利になっているのだから、本来のドウキ(1)は同じである。

少々話がややこしくなっているのは、「他者から見た（想像上の）自分」をずばり一言で表す適切な言葉がないためである。そういう言葉が存在しないのは、こういった議論があまり会話でなされないからだろう。みんな考えてはいるけれど、こういった本音の意見交換は滅多にしないものだ。

【Ⅴ】他者に見られたい「自分」と本来の「自分」のギャップは、大多数の人が悩むテーマである。これに悩まない人はたぶんいないのではないかと、と思われるほど、「人間の悩み」、特に「個人的悩み」の代表格といえるものだろう。これを解決する方法は二つしかない。他者に見られたい【F】的自分を修正するか、あるいは、本来の【G】的自分を修正するか、のいずれかである。簡単にいえば、夢のような高望みを諦めるか、それとも鍛錬し精進して自分自身を本当に高めるか、の選択になる。実際には、この両者を歩み寄せ、ギャップの幅を「これくらいならばなんとか誤魔化せるだろう」という辺りまで近づけることになる。誰もが日々努力していることだ。

（森博嗣『自分探しと楽しさについて』集英社 問題作成上、一部を改変した）

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 1、

(イ) 2。

(ア) キョクタン

① 自分のタンシヨを自覚すべきだ

② 事のホツタンは一本の電話だった

③ 土地をタンポに融資を受ける

④ タンピンで売り物にしている

⑤ タンスイ魚について調査した

(イ) ドウキ

① この子はいつもゲンキ一杯だ

② 約束のキジツを守るべきだ

③ キミツ事項を漏らしてはならない

④ ポキの資格を取るために勉強する

⑤ 会社には厳しいキリツが存在した

問二 空欄A、Eに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 3。

① A たとえば E もちろん

② A そのため E しかし

③ A ところが E つまり

④ A そのうえ E ただし

⑤ A ところで E いわば

- 問三 空欄Bに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 主観 ② 絶対 ③ 排他 ④ 恣意 ⑤ 抽象

- 問四 空欄Cに入るものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 本心をいう ② 嘘をつく ③ 悪口をいう ④ 我儘わがままをいう ⑤ 噂うわさをする

- 問五 空欄Dに入る文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 相手が怒っているのは、相手の認識している自分像に合わせて行動しなかつたせいだ
② 相手を裏切ることによって、将来的に自分が有利な立場になれるに違いない
③ どうかして相手の怒りを回避して、この場を乗り切ることが望ましい
④ ここで相手を良い気分させておけば、きっといつか自分に有利なことがある
⑤ 相手の認識がどうであっても、自分の意識する「自分」を貫くことが重要である

- 問六 傍線部分(1)「自分しか知らない本来の「自分」は、わりと簡単に「隠せる」とはどのようなことか。その説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 他者向けの自分像を演じることで、ある程度は自分を偽ることができるということ
② 思考を他者に知られることはないため、理想の自分を自由に想像できるということ
③ 周囲に他者がいない自分一人だけの空間では、本来の自分を確認できるということ
④ 大人は「嘘をついてもわかりますよ」と言うが、それは真実ではないということ
⑤ 本来の「自分」とは全く異なる自分像を装っても、他者に信じてもらえるということ

問七 傍線部分(2)「反語」とあるが、反語表現の一般的な説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 相反する事物を対照させて、両者の状態をいつそうはつきりさせる技法
- ② 文などにおいて、成分をなす語や文節をあえて普通の順序とは逆にする技法
- ③ 最後の句を体言で終わらせることによって、余韻や余情を生じさせる技法
- ④ 断定を印象づけるために、言いたいことと反対の内容を疑問の形で述べる技法
- ⑤ ある物事を、類似したり関係したりする他の物事になぞらえて表現する技法

問八 空欄F、Gに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① F 虚像 G 実像
- ② F 全体 G 個人
- ③ F 客観 G 主観
- ④ F 楽観 G 悲観
- ⑤ F 帰納 G 演繹

問九 この本文には次の一文が欠落している。本文中の【I】～【V】のどの箇所に補えばよいか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

このように、他者から見た自分像は、自分の能力から大きく離れない位置にしか成り立たないことがわかる。

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】
- ⑤ 【V】

問十

本文の内容に合致するものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は 11 (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 他者からの言葉や態度によって、他者が自分をどう認識しているかを想像できる
- ② 人間は、常に他者から見た「自分」に近づくために鍛錬し精進すべきである
- ③ 他者の認識を重視するなかで、十代には本来の自分像が消えてしまう人が多い
- ④ 他者に対し、自分本来の価値をなるべく低く認識させようとする例は全くない
- ⑤ 他者に見られたい自分像と本来の自分像のギャップに悩む人は、非常に多い

二 二次の文章を読み、後の問に答えなさい。

食物を「粗と密」という眼^めでとらえてみる。いままで気にもしていなかった食物の新しい顔が見えてきそうだからだ。「粗」とは粗大ゴミの粗、「密」⁽¹⁾とは緻密、稠密^{ちゆうみつ}の密である。

その前に都市風景と自然風景、人工物と自然物のコントラストについて考える。たしかにこの両者ははつきりちがった印象をあたえる。そのちがいはなにか。これを「粗密の対比」でとらえるとどんなことになるか。コンクリート・ジャングルの中の街路樹、ビルの玄関先に置かれた生花や観葉植物は人工的風景の中に作られた自然風景といえよう。これらはゴツゴツした粗大な風景の中に埋めこまれた「キメこまかな風景」とはいえまいか。

山野の自然の中にひたつたとき、だれもが感じる包みこまれるような体験は、そのかぎりなく濃密でキメこまかい「空間体験」といえよう。存在の根源に立ち会っているような、一種の原初体験である。それは「懐かしさ」と形容してもよいであろう。「懐かしさ」に粗大は不似合^あいである。

自然風景のスカイライン^(注1)だけでなく、木や草のたたずまい、鳥や虫や魚の形態、土壌や岩石の肌でさえ、そこには神秘的なまでの「キメこまかさ」が^(注2)つめこまれている。「キメこまかさ」はたんに視覚世界にとどまらない。耳をすませば木々の葉ずれ、川の水音、鳥の鳴き声、耳もとの風声など複雑微妙なボリフォニー^(注2)の聴覚世界が立ちあらわれてくる。嗅覚や、触覚や、そして味覚の世界にさえ、自然の際限もない「こまやかさ」^(ア)がシンジュンしている。

飛行機から見下ろす海岸線の「キメこまかさ」もやはり自然の風景の特徴をよく表しているようだ。はるか下に際限もなく微細な凹凸がうねっているのがみえる。いかに巨視的な地形であつても、それがただ自然の風景であるというだけで、その「キメこまかさ」は覆いかくしようもない。凹凸は無限にこまかいヒダをなしているであろうから、仮にこれを完全にひきのばしたとしたり、無限に長い直線となろう。こうして自然風景の「キメこまかさ」あるいは「際限のなさ」とはたんなる比喩や感傷ではないことがわかる。

都市を出て、人がもしこの自然世界の中で調和感や快適感を味わうことができるとしたら、人間という生物もまた自然の「キメこまかさ」と次元をひとしくしているからではなからうか。人間もまた自然物、といういたって平凡な結論を得る。少なくとも「原初のカタチ」を人間はかかえて生きていくといつてよいであろう。

さて、その人間は数かぎりない人工物を環境中につくりだしてきた。都市もまたそうである。都市風景はなぜ粗大なのだろうか。人工物はなぜ自然物にくらべてキメが粗いのだろうか。それらはいかに巧緻に構築され、粋をきわめていても、自然のもつあの無限の密度と「キメこまかさ」にはなお遠くおよばない。これはいったいどうしたことであろう。どんな名工の彫像も実物の人体にくらべればはるかに粗大、粗剛であることをまぬがれない。それどころか比較を絶しているのだ。しかし、これらの人工物もいつかは崩壊し、風化する。ガレキの山もしだいに「キメこまかさ」を増して、自然のもつ緻密の中へと埋没・溶解していくもののようにだ。ただ、放置するのみで人知の遠くおよばない「キメこまかさ」をアツサリと取り戻してしまうのである。

さて、この世界はそれ自体としては未分節の連続体あるいは錯綜体として投げ出されてある、という「かながえ」がある。それだけでは無意味でつかみどころのない塊、つまりマグマのようなもので、この塊に言葉が切れ目をいれ、網目構造をつくりだして、はじめて世界に意味があたえられ、世界が解釈されると考えるのだ。ひとまずこの「かながえ」に乗ることにしよう。

「初めに言葉ありき」(注3)はそのような言葉による「世界の分節」をいつているのである。言葉というものがなかったら、人間は観察したり、解釈したり、考察することができないといっているのだ。つきたてのモチを切り分けるような話だ。言葉の介入によって、この世界は連続体から不連続体へ、錯綜体から構造体へと変容するわけだ。言葉といういわば不連続の意味単位からなるリサン構造⁽⁴⁾へと、世界が変貌することになる。

人間は、世界を分節する言葉・意味単位を配列編成してさまざまの文化的、あるいは人工的所産を編み上げてきた。その意味で文化あるいは人工物とは「積み木細工」にはかならない。人間のつくりだすすべてのものは、言葉を反映しているといつてもよいであろう。あるいは言葉そのものというべきかもしれない。それが大がかりに視覚に訴えるものであれば都市風景として現出するというわけである。

そこで論理必然的に、こうして編み上げた人工物のキメはいくらこまかくしていても、「言葉の網」のメッシュ以上ではありえないということになる。いいかえれば言葉の意味単位よりこまかくはできないということである。その網目からは当然に、未知の何ものかがつねに漏れ出てしまうのである。逸失した何ものかは言葉によっては回収不能である。つまり、何が失われたのか人間には知りえないのだ。

さて、ようやく食物の「粗と密」について語る準備がととのった、といっても大体のことは語り終えてしまったようだ。

食物を口に入れる。ただ、それだけのことなら「食べる」とは「ヘビがカエルを呑みこむ」にひとしい営みであろう。しかし、人はヘビではない。ホモ・ロクエンス（言語動物）たる人間は、自然物としてたんなる A にすぎない食物に「言葉の網」をかけて意味単位に分節し、これを解釈しようとする衝動をおさえることができないのである。こうして食物は一個の概念に変貌する。

近代栄養学は栄養素というあたらしい意味単位を見出だした。食物についての「新解釈」が生まれたのである。飯・焼魚・漬物・味噌汁という昔ながらの「食物の分節」に、⁽⁵⁾横断的に新しい意味単位が侵入してきた。飯もオカズも汁も、タンパク質・糖質・脂肪・ビタミン・ミネラルという意味単位に分節され、昔の人には思いもよらない意味を持たされることになってしまったのである。一見「言葉の網」が緻密になったかのような事態である。

しかし、栄養素という「言葉の網」のメッシュはそれらの食物をまるごとすくいあげるには粗大で単純であることもみとめねばならない。^(注4)経管輸液や経腸輸液は栄養素という意味単位だけをポジティブに取り出して編成、組み立てた人工食物といえるだろう。曖昧な要素を排除し、ウラまで透けて見せてしまうとところが、人工食物の応急的な性格をよくしめしている。こうした人工食物の透明度をさらに極限にまで高めるとビタミン剤になる。自然物としての食物と比べて、いかにも粗大である。

近年、食物成分を易消化性と難消化性に分節して、⁽⁶⁾食物繊維というあたらしい意味単位が生まれた。これは栄養素と非栄養素の分節であり、従来とはまったく別の食物解釈系をあたえることになった。非栄養素にも積極的な生理作用がみとめられたためである。さらに食物繊維の内部で水溶性と水不溶性に分節されてそれぞれの生理機能がことなることがわかってきた。食物繊維あるい

は難消化物という「言葉の網」によってすくいあげられるものは、さきの栄養素という「言葉の網」よりもいっそう粗大であるのは仕方がない。この網で食物をすくいあげると、「一塊のレタス」は「一本の食物繊維入り清涼飲料」と等価とみなされるにいたる。

(五明紀春「食」の記号学」問題作成上、一部を改変した)

(注1) スカイライン 山や大地によって仕切られた空の輪郭。地平線

(注2) ポリフォニー 複数の旋律が同時に対等の関係でからみあう音楽

(注3) ヨハネ伝 聖書の一部を成す文章

(注4) 経管輸液や経腸輸液 通常の食事がとれない人が液状の栄養分をチューブで胃や腸に直接流し込むことがある。ここでの経管輸液、経腸輸液とは、このとき流し込まれる人工溶液を指す

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 12、

(イ) 13。

(ア) シンジユン

- ① ジュントウに優勝候補が勝ち進む
- ② 事業で一億円のジュンリエキを出す
- ③ 警備員が店内をジュンカイする
- ④ ジュンタクな予算を確保する
- ⑤ 血液が体内をジュンカンする

(イ) リサン

- ① けんかの相手にコウサンする
- ② 当初のモクサンが外れる
- ③ 戦争のサンゲキを繰り返し返さない
- ④ 彼は韻文もサンブンも得意だ
- ⑤ 提案へのサンピについて投票する

問二

傍線部分(1)「密」について説明したものととして、適当なものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は (解答欄
一行に二つマークすること)。

- ① 都市は街路樹などの自然物が緻密に組み込まれている点で「密」な空間と呼べる
- ② 木々の葉ずれなどの自然音は複雑に組み合わせることで「密」なものに変わる
- ③ 人間という生き物は自然物のひとつであり「密」な要素を持つといえる
- ④ 自然の海岸線も入り組んだ地形になっていなければ「密」なものとはいえない
- ⑤ 「密」なものに包まれると人間は「懐かしさ」と呼べるような感覚を覚える

問三

傍線部分(2)「人工物」について説明したものととして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 人工物も、心を込めて精緻に作り上げれば自然物と同様の「キメこまかさ」を持つようになる
- ② 人工物も、「原初のカタチ」をかかえたままの人間が作れば「キメこまかさ」を持つようになる
- ③ 人工物も、人の手を離れて風化してゆくとそれに応じて「キメこまかさ」を持つようになる
- ④ 人工物も、言葉による網目構造で捉え直せば「キメこまかさ」を持つようになる
- ⑤ 人工物も、自然物のなかに溶け込むように配置すると「キメこまかさ」を持つようになる

問四 傍線部分(3)「つきたてのモチ」とは何をたとえた表現か。本文中にある次の語句のうち、最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 。

- ① 「かんがえ」
- ② 世界
- ③ 言葉
- ④ 網目構造
- ⑤ 意味

問五 傍線部分(4)「何が失われたのか人間には知りえない」とあるが、それはどういうことか。説明として、最も適当なものを

一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 人間は言葉によって世界を読みとっているが、一度捉えたものを失うと言葉では二度と取り戻せなくなるということ
- ② 人間は言葉によって世界を連続的なものとして捉えているが、言葉で言い表せないものは把握できないということ
- ③ 人間は言葉によって世界を理解しているが、言葉のキメこまさが十分でなければ捉えられないものが残るということ
- ④ 人間は言葉によって世界のありようを捉えているが、言葉にそのような力があることに気づいていないということ
- ⑤ 人間は言葉によって世界を分節して認識しているが、言葉にならないものは捉えきることができないということ

問六 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 塊(マグマ)
- ② 切れ目(網目構造)
- ③ 積み木細工(錯綜体)
- ④ 不連続体(構造体)
- ⑤ 言葉(意味単位)

問七 傍線部分(5)「横断的に」の本文中の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 昔ながらの分節とは別に、それとは相反する分節として
- ② 昔ながらの分節とは別に、それらすべてに関わる分節として
- ③ 昔ながらの分節をもとに、それを近代的に解釈した分節として
- ④ 昔ながらの分節をもとに、それをより細分化した分節として
- ⑤ 昔ながらの分節をもとに、それを別の言い方で捉えた分節として

問八 傍線部分(6)「食物繊維」について述べたものとして、**不適当なもの**を一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 食物繊維という概念は、消化のしやすさを基準にした分節で生じたものである
- ② 食物繊維という概念は、近代栄養学が発達する前には存在しなかったものである
- ③ 食物繊維という概念は、栄養素という意味単位を細分化したもののひとつである
- ④ 食物繊維という概念は、水に溶けるかという基準で下位分類することができる
- ⑤ 食物繊維という概念は、食物の自然なありかたを捉えるには粗大なものである

問九

本文では、食品の分節のありかたとして、飯・焼魚・漬物・味噌汁という昔ながらの分節と、近代栄養学による新しい分節が挙げられ、人工食品が新しい分節の所産であることが述べられている。これらの分節に関する次の説明のうち、本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

- ① 昔ながらの分節も、意味単位による構造化である以上、「密」といえるものではない。新しい分節も、意味単位ではなく科学による構造化という点では異なるが、やはり「密」ではなく、人工食品も「粗」である
- ② 昔ながらの分節は、分節の仕方に厳密さを欠くという点で「密」なものとはいえない。新しい分節はそれにくらべると一見「密」な面を持つが、栄養素を純粹に抽出して作られた人工食品は「粗」であるといえる
- ③ 昔ながらの分節は、食品の自然なありかたを捉えている点で「密」であるといえる。新しい分節も科学の力で詳細に食品を分析する点で「密」ではあるが、人工食品は単純な構造しか持たない「粗」のものである
- ④ 昔ながらの分節は、食品を錯綜体のまま「密」なものとして捉えるものである。新しい分節は人為的なものである点で「密」なものとはいえず、それにもとづいて作られた人工食品も「粗」のものであるといえる
- ⑤ 昔ながらの分節も、自然物の不連続なありかたにくらべれば「密」と呼べるものではない。新しい分節も「密」なものではなく、栄養素だけを取り出して作った人工食品は自然物としての食物よりも「粗」である

以降は選択問題です。表紙の「表」の指示に従っていずれか一つを選択し解答してください。
問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
選択問題を二つ以上解答した場合、得点にはなりませんので十分注意してください。

三ア 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

現代社会の中での科学は、まず「役に立つ技術を生むための知識」とされているのではないだろうか。⁽¹⁾この「役に立つ」という言葉に、科学者も社会も縛られているのです。もちろん「役に立つ」ことは大事ですが、その意味をていねいに考える必要があります。しかも、科学と科学技術は決して同じものではありません。科学、科学技術、役に立つというような言葉を一つ一つていねいに考えることが必要だと思ふのです。

子どもたちの理科離れを憂い、大人の科学リテラシーの欠如を嘆く声は、新しい科学技術開発とそれが生み出す新製品、そこから生まれる経済成長を求めてのものになっています。その必要性を否定はしませんが、「自然科学」というように、科学の本来の姿は、自然と向き合うことであり、そこから自然観、人間観を生み出すことです。つまり、科学は一つの文化なのです。近年日本では、科学という言葉を単純に科学技術に置き換えてしまい、文化として存在する科学そのものを忘れる傾向があります。

科学を文化とするなら、本を読み、絵を眺め、音楽を聴くのと同じように、誰もが科学と接することができて初めて、科学が社会の中に存在したことになるはずです。ここで、作家や画家や音楽家が自分の作品を世に出すときに、⁽²⁾コミュニケーターを求めたりするだろうかと考えてみると、今の科学のありようの不自然さが見えてきます。

私は、ここに科学の問題があると考えています。現在の制度では、科学が社会へと出ていく方法は論文と決められています。論文は、分野を同じくしている専門家に理解されればよいのであり、そのために必要で十分な事柄を書くための作法も定められています。もちろん論文は重要な発信方法ですが、文化として科学が広く受けとめられることを考えた時には、あまりにも限定された対象への特殊な形での発信と言わざるを得ません。小説や絵や音楽とはまったく違います。しかも最近は論文の数やどの専門誌に投稿するかなどによって評価されるので、ここでの競争に明け暮れることとなります。震災後に、音楽家はすぐ被災地で歌い人の心を明るくすることができるのに、基礎科学の研究者は何もできないことを痛感したと述べましたが、まさにそうなのです。

どうしたらよいか。ここで比較してみたいのが音楽です。小説や絵は作品がそのまま受けとめられますが、音楽は楽譜の状態で

理解することは一般の聞き手には難しく、演奏されることが必要です。ベートーヴェンが素晴らしいと思えるのは、オーケストラ、ピアノなどさまざまな演奏家という「専門家」による表現があるからです。演奏家は楽譜を通して、音楽と同時に自分を表現します。私は、科学にもこの作業が必要なのではないかと思っています。コミュニケーターでなく表現者です。しかも、本来なら音楽も作曲家が演奏者でもある、シンガーソングライターが原点でしょう。モーツァルトもベートーヴェンも演奏をしていました。科学者も本来は、そうあるべきなのではないでしょうか。

「科学の表現」、これは重要なテーマです。コミュニケーターと言ってしまつと科学の成果や社会でいかに役立つかを伝えることとなり、得てして A となりがちです。論文という楽譜をいかに演奏するか、表現するか。後述するように、私の属する生命誌研究館ではこの道を探っています。

では、文化としての科学の表現に対して、広く一般の人々が関心を持つようにするには、科学者はどうすればよいでしょうか。概して、人の話を聞く場合、大切なはその内容と同じくらい、またはそれ以上にその人への関心であり、さらには信頼です。それがあれば少々難しいことでも耳を傾け、学ぶ気持になります。話上手でなくても惹きつけられます。

ここで思い出すことがあります。私が学生の頃は、湯川秀樹先生が日本で初めてノーベル賞を受賞され、朝永振一郎先生もその候補としてあげられるなど、物理学が輝いていた時代でした。ですから、朝永先生の講義をぜひ聞きたいと思ひ、憧れの気持で教室に行きました。先生は文章がお上手ですし、みごとな講義をしてくださっているには違いないのですが、なにせお声が小さくボソボソと話されるのです。でも、先生の話を聞きたい一心で耳を傾けました。講義はわかりやすくなければならないという基準を作つて学生に評価させるのが最近のフウチョウですが、それとはまったく別の魅力でした。

幸い朝永先生も湯川先生も生物学に強い関心を持つていらしたので、大学院生になってからは、物理の難しい話でなくDNAや細胞についてのお話をする機会がありました。そのような時先生方は、常に新しい学問を学ぶ楽しさを感じておられるのがわかりました。科学に限らず、さまざまなことに関心を向けられている幅の広さが印象的で、これが若者を惹きつける力なのだと感じたのを思い出します。

教育とはまさに、こういうものでしょう。先生への信頼が基本です。最も大事なものは人間として語っているかどうかということ。それを考慮せずに、科学は難しい特別の分野とし、科学者・科学技術者は、普通の人と同じ考え方ができない、普通の言葉も話せない人としてしまうことには疑問を感じますし、それをしてはいけないと思います。

専門のことはそれを専門とする人が最もよくわかっているのですから、その人に聞くのが最もよいはず。私は仕事の中で専門の異なる方たちと話す機会が多く、その場合、数学、情報科学、言語学など、なじみのない分野の話聞くこともよくあります。それらをすべて理解することなどトウテイできませぬ⁽¹⁾。正直、難しいと思います。でも、お話の中から自分にとって本当に大切なことを探し出すことはできますし、最も得るところが多いのはやはり専門家に直接話を伺った時です。

あらためて強調しておきたいのですが、専門家への信頼がなくなっている理由は、現在の科学そして科学者のありようそのものが間違っているからなのです。その根本を直さずにコミュニケーターを置くことで解決しようとするのは間違いだと思っています。

専門家の言葉を受けとめる社会の側も、「言葉の意味をよく考えることの大切さ」を改めて認識しなければなりません。とくに、新たな技術を標榜^{ほう}する新しいキャッチフレーズが独り歩きしがちです。生物学の関連で言うなら一九八〇年代に「バイオテクノロジー」という言葉が流行し、製造業だけでなく、出版社までその研究に参入するという事態になりました。しかし、どのような技術を用いて何を生み出すのかという明確な道筋もなく言葉⁽⁴⁾だけが躍った感があり、その流れから確たる産業構造が生まれることにはなりません。 「よくわからないから無関心」でも「過剰な期待」でもない態度で、科学が明らかにした成果やそこから生まれた科学技術を、適切に利用できる社会を作っていくためには、社会を構成する一人一人が、Bに、自分の感覚で、考えていかななくてはなりません。

今回、原発事故を機に関心が高まった「自然・再生エネルギー」という言葉も、自然エネルギーとは、再生とはと考えると、実際にそのエネルギーで社会を動かしていくには、社会のしくみを変えていくほかに見えてきます。現在のようない極集中型で大型化をめざす社会には、太陽光・風・水・地熱の利用のどれも向きませぬ⁽⁵⁾。地産地消型の小さな地域を基本に置き、経済価値からだけの評価ではなく、生活すべてからの評価で事が動く社会に変わらなければ、自然エネルギーの活用は無理です。⁽⁶⁾

こうした社会の方向転換が、専門家の力だけでなし得ないことは明らかです。けれども多くの人が、社会の変化の必要性には眼をつぶっているために、メガソーラーという自然・再生とは合わない方向へと大勢は動いています。ていねいな検討が必要です。そこでまず専門家が言葉を大切にし、誰にも話が通じるようにしなければなりません。高度の専門的内容そのものを理解させるといふより本質を語れなければなりません。それには、専門家が専門の中だけにあるのではなく、聞く側の人と人間としての共通基盤がなければならぬと思うのです。しかも人間としての魅力を持っていたとしたら、それはすばらしいことでしょう。

(中村桂子『科学者が人間であること』問題作成上、一部を改変した)

問一 傍線部分(ア)、(イ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。 解答番号は(ア) 51、

(イ) 52。

(ア) フウチヨウ

(イ) トウテイ

- ① あの人はチヨウシの良いことばかりを言う
 - ② ビジネスのチヨウリュウを見極める
 - ③ 物事をシンチヨウにすすめる
 - ④ ダンチヨウの思いで別れを決めた
 - ⑤ この映画の結末は善悪をチヨウエツしていた
- ① 花束をゾウテイする
 - ② 証人が裁判にシュツテイする
 - ③ 資金がフツテイしてしまふ
 - ④ 目的地までのドウテイを確める
 - ⑤ タンテイに調査を依頼する

問二 傍線部分(1)「この「役に立つ」という言葉に、科学者も社会も縛られているのです」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 科学者も社会も、科学技術による社会の進歩を期待するのみで、リスクについては想定していない
- ② 科学者も社会も、社会の要求に応じる実用的な科学技術のみに注目し、基礎研究をおろそかにしている
- ③ 科学者も社会も、目先の利益にとらわれ、科学技術の長期的な計画を立てることができずにいる
- ④ 科学者も社会も、科学技術の経済効率を優先するあまり、人々の感情を置き去りにしている
- ⑤ 科学者も社会も、経済成長を支える科学技術のみを重要だと考え、研究の社会的意義を軽視している

問三 傍線部分(2)「コミュニケーター」とあるが、筆者が考える科学者にとってのコミュニケーターの説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 社会の中で、専門家と一般人が交流する場を設定する存在
- ② 専門家の研究成果を、社会の尺度で評価する存在
- ③ 科学技術の実用性をアピールし、研究資金を獲得する存在
- ④ 難解な専門的内容を、社会に向けて分かりやすく伝える存在
- ⑤ 認知度の低い科学技術に注目し、ビジネスにつなげる存在

問四 空欄Aに入る語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 広報
- ② 学者
- ③ 伝令
- ④ 交渉人
- ⑤ 教育者

問五 傍線部分(3)「専門家への信頼がなくなっている理由」の説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答

番号は 。

- ① 科学者は、研究で得られた知見を一方的に社会に伝えるのみで、社会貢献に無関心だから
- ② 科学者の知識は特定の分野にかたよっており、人間としての幅がせまいから
- ③ 科学者が専門家集団内で情報を独占することにより、社会に悪影響を与えているから
- ④ 科学者が、科学を一つの文化として社会の中に位置づけようとしていないから
- ⑤ 科学者が専門用語を多用し、あたかも一般人を見下しているかのような印象を社会に与えているから

問六 傍線部分(4)「言葉だけが躍った感」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 美辞麗句をもちいて相手を賛美する様子
- ② 人々の注目を集めたが、内容が伴わない様子
- ③ 実現不可能な物事を、可能であるかのように話す様子
- ④ 理想だけを語り、現実から目を背けている様子
- ⑤ 相手を説得するために言葉を尽くす様子

問七 空欄Bに入る語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 普遍的
- ② 画一的
- ③ 利他的
- ④ 独善的
- ⑤ 自律的

問八 傍線部分(5)「地産地消」とあるが、この言葉が一般的にもつ意味と類似する意味を有する言葉として、最も適当なものを

一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 地方分権
- ② 適材適所
- ③ 多極分散
- ④ 自給自足
- ⑤ 共存共栄

問九 傍線部分(6)「経済価値からだけの評価ではなく、生活すべてからの評価で事が動く」の例として不適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 。

- ① 発電効率の向上を最優先し、低コストでの電力供給に努める
- ② 新しい再生可能エネルギーを開発し、環境負荷の低減を目指す
- ③ 森林や海の生物多様性に配慮した発電技術を採用する
- ④ 各家庭における太陽光発電を推奨し、自然災害時に備える
- ⑤ 地域の特性に応じたエネルギー政策を立案し、地域振興につなげる

問十

傍線部分(7)「人間としての共通基盤」の説明として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 社会問題を解決するには科学技術が不可欠であるという、共通の認識
- ② 経済成長を果たすために不可欠な、生活者としての感覚
- ③ 自然と人間社会の関係のあり方を考え続けようとする姿勢
- ④ 科学の本質を理解できるだけの教養および言語能力
- ⑤ 社会の変化に対応し、新しい技術を受け入れることができる柔軟性

三イ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

今は昔、^(注1)柏原の帝の御時に、^(注2)平の宮造らせ給ひける間、^(注3)長岡の宮より時々行幸して、新しく造らるる都をご覧するに、とばかりおはしますに、^(注4)羅城門の辺にて御輿を停めて、^(注5)匠を召して仰せられけるやう、「いとよく門は建てたり。ただし、長なむ、いま一尺切る」^(注6) A。風速き所に、ひとつ屋にて建てたれば、風のために危ふきなり。風は、長、いまし勝り劣るに随ひて、防がるることなれば、所の地の体に随ひて、長の程は建つるを、この頃の匠は、⁽¹⁾それをえ知らで、屋を建つれば、この門いま一尺切れ。さらば良かりなむ」と召して仰せられて、内に入らせ給ひて、長岡の宮に帰らせ給ひぬ。

さて、造り果てて、都遷り近くなりて、行幸してご覧ず。初めのごとく羅城門の前に御輿を停めてご覧するに、⁽²⁾瓦葺きに白土、みな塗り果てたり。ことごとくにみなし果てて、⁽³⁾金物ばかり打たざりける。匠召して仰せらるるやう、「我は初め悪しく見て、一尺切れと仰してけり。一尺五寸ぞ切らすべかりける。いま五寸切るべし。なほ高く見ゆる」と仰せられければ、匠、⁽⁴⁾にはかに臥しまろび、⁽⁵⁾怖ぢ感じて、⁽⁶⁾さま悪しく震ふやうにすれば、⁽⁷⁾あやしとおほしめして、「いかにするぞ」と問はせ給へば、匠の申すやう、「この門の長は、元の門のやうに建て合はせ候ふを、一尺切れと仰せられしが、仰せのままに切りては、⁽⁸⁾無下に低くまかりなりなむ。遠く見上ぐるに、高やかにて候ふこそ、⁽⁹⁾きらきらしく候へ。かかる離れ屋の、平に見えは、⁽¹⁰⁾見苦しく候ひぬべし、と思ひ候ひて、五寸を切りて候ふなり。それに、いま五寸と仰せ候へば、初めご覧損なひたるには候はず」と申す。帝、「かしこく見てけり。こぼち切らば、都遷りの日近くなりて、え合はせじ。さらば、せであるばかり。ただし、風にや、ともすれば吹き倒されむ」と仰せごとありければ、匠の申すやう、「いみじく強く作りて候ふものなり。長五寸切り候ひぬれば、さらに危ふきこと候はじ」となむ申しけり。

さて都遷りの後、末の世に至るまで、三度ばかり吹き倒されたりければ、帝のご覧じたることかなひにたり。⁽⁷⁾いみじうおはしましけり。物の上手となむ申し伝へたる。

(注1) 柏原の帝 桓武天皇のこと。第五十代天皇。七九四年に長岡京から平安京に遷都した

(注2) 平の宮 平安京

(注3) 長岡の宮 長岡京。七八四年に桓武天皇が造営した都

(注4) 羅城門 平安京の正門。朱雀大路の南端にあった

(注5) 長 高さ

(注6) 一尺 約三〇センチメートル

(注7) 五寸 約一五センチメートル。一寸は約三センチメートル

問一 空欄Aに入る語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① らむ ② らめ ③ べし ④ べき ⑤ らし

問二 傍線部分(1)「それをえ知らで」、(2)「我は初め悪しく見て」の解釈として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(1) 、(2) 。

- (1) ① 風害対策を考えて羅城門を建てるべきであるという指示があったのに、それを知らず
② 風害を防ぐためには、立地条件に合わせて建造物の高さを調整すべきことを理解できず
③ 風害対策の必要なことは知っていても、羅城門の立地条件を調べることができず
④ 風害対策のために羅城門の高さを調整することが、伝承された教えとは知らないで
⑤ 立地条件によって建造物の高さを調整することを、故意に知らされず

- (2)
- ① わたしは、初め、羅城門の高さを見誤って
 - ② わたしは、初め、匠の腕前がよくないと思って
 - ③ わたしは、初めから羅城門が完成できないと思って
 - ④ わたしが、初めて羅城門を見たとき悪い予感がして
 - ⑤ わたしは、初め、金物の強度を見誤って

問三

二重傍線部分(ア)「切らす」、(イ)「おぼしめし」、(ウ)「切り」、(エ)「申し伝へ」の動作主として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を複数回解答してもよい。解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、

(エ) 。

- ① 桓武天皇
- ② 匠
- ③ 昔の匠
- ④ 世の中の人々
- ⑤ 語り手

問四

匠が、傍線部分(3)のように行動したのはなぜか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 勅命に従って、羅城門を立派に建造したにもかかわらず、もっと高くすべきだと桓武天皇に言われたため
- ② 勅命にそのまま従わず、自身の判断で羅城門の高さを調整したところ、まだ高いと桓武天皇に言われたため
- ③ 勅命に従って、羅城門の高さを調整したにもかかわらず、調整が不十分であると桓武天皇に叱責されたため
- ④ 勅命に従わず、羅城門の高さを調整しないまま瓦葺きにしたことを、桓武天皇に責められたため
- ⑤ 勅命にそのまま従わず、羅城門の高さを調整して、風害を防ごうとしたことを桓武天皇に見破られたため

問五 傍線部分(4)「さま悪しく」、(5)「きらきらしく」の本文中の意味として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークし

なさい。解答番号は(4) 、(5) 。

- (4) ① ふてぶてしく ② 機嫌が悪そうに ③ 悪寒がして ④ 悪意を持って ⑤ 見苦しく
(5) ① 清らかで ② 威厳があり立派で ③ 夕日を反射して光り輝いて ④ 野心作に見えて ⑤ 安全で

問六 傍線部分(6)「かしこく見てけり」は、桓武天皇の、どのような気持ちを表現しているのか。最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 。

- ① 見栄えが悪くなると言う匠の反対を押し切って、羅城門の高さを一尺低くさせたことが、間違っていなかったと安堵した
気持ち

- ② 匠が羅城門の見栄えよりも安全を重視して高さを一尺五寸低くしたことによって、風害を防いだことを褒め称える気持ち
③ 匠が羅城門の高さを一尺切るよう提言したのに対して、さらに五寸低くさせた自身の判断の正しさを確信する気持ち
④ 経験豊富で、腕のよい匠を見いだして、羅城門を立派に造らせたことを自慢する気持ち
⑤ 羅城門を初めて見たときに、高さを一尺低くするべきだと判断したことが、間違っていなかったことを誇る気持ち

問七 傍線部分(7)「いみじうおはしましけり」は、誰に対する、どのような評価を示しているのか。最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 。

- ① 羅城門の建築を担当した匠が、桓武天皇の圧迫に屈せず、後代に残る素晴らしい門を造ったということ
- ② 羅城門の建築を担当した匠が、桓武天皇の指示に従わず、後代に倒壊を招いたひどい工匠であったということ
- ③ 桓武天皇が、匠の意見を聞かず、羅城門の建築を変更させて、倒壊を招いたひどい天皇であったということ
- ④ 桓武天皇が、建築を一つの例に取っても、匠よりも優れた知見を持つ素晴らしい天皇であったということ
- ⑤ 平安時代の天皇は、桓武天皇に限らず、何事にも優れた知見を持つ素晴らしい天皇であったということ

問八 『世継物語』は鎌倉時代に成立した説話集である。最も近い時代に成立したものを一つ選び、マークしなさい。解答番号

は 。

- ① 万葉集
- ② 南総里見八犬伝
- ③ 古事記
- ④ 方丈記
- ⑤ 伊勢物語

三ウ 次の文章を読み、後の問に答えなさい（設問の関係上、訓点を省いた部分がある）。

温^(注1)人⁽¹⁾□^(注2)周、不^(注3)納^(注3)客。問^(注3)之^(注3)曰^(注3)、客耶^(注3)。对^(注3)曰^(注3)、主^(注4)人^(注4)問^(注4)其^(注4)巷^(注5)人^(注5)而^(注5)不知^(注5)也、吏^(注5)因^(注5)囚^(注5)之^(注5)。君^(注5)使^(注5)人^(注5)問^(注5)之^(注5)曰^(注5)、子^(注5)非^(注5)周^(注5)人^(注5)也、而^(注5)自^(注5)謂^(注5)非^(注5)客^(注5)何^(注5)也。对^(注5)曰^(注5)、臣^(注5)少^(注5)也^(注5)。誦^(注6)詩^(注6)曰^(注6)、普^(注7)天^(注7)之^(注7)下^(注7)、莫^(注7)非^(注7)王^(注7)土^(注7)、率^(注8)土^(注8)之^(注8)浜^(注8)、莫^(注8)非^(注8)王^(注8)臣^(注8)。今^(注8)君^(注8)天^(注8)子^(注8)、則^(注8)我^(注8)天^(注8)子^(注8)之^(注8)臣^(注8)也、豈^(注8)有^(注8)為^(注8)人^(注8)之^(注8)臣^(注8)、而^(注8)又^(注8)為^(注8)之^(注8)客^(注8)哉^(注8)、故^(注8)曰^(注8)主^(注8)人^(注8)也^(注8)。君^(注8)使^(注8)出^(注8)之^(注8)。

〔韓非子〕

(注1) 温 かつて周に属したこともある、周に近い地方の町

(注2) 周 武王が殷をほろぼして建てた王朝。『韓非子』が書かれた春秋戦国時代にはすでに衰えていた

(注3) 客 旅行者

(注4) 主人 その土地の者

(注5) 巷人 民間人

(注6) 詩 『詩経』

(注7) 普天之下 あまねくこの天下

(注8) 率土之浜 大地の果て

- 問一 空欄(1)に入る漢字として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 帰 ② 於 ③ 之 ④ 知 ⑤ 伐

- 問二 傍線部分(2)「客耶」の本文中の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 他国から来た者なのか
② なんと他国から来た者ではないか
③ 他国から来た者であるはずがない
④ 他国に行っていた者なのか
⑤ なんと他国に行っていた者ではないか

- 問三 傍線部分(3)「不知」、(6)「対曰」の動作主として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。ただし、同じ番号を複数回解答してもよい。解答番号は(3) 、(6) 。

- ① 温人 ② 客 ③ 巷人 ④ 吏 ⑤ 君

- 問四 傍線部分(4)「使人問之曰」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。
- ① 人をして之に問はんとして曰く
② 人をして之に問はしめて曰く
③ 人を使ひて之に問はんとして曰く
④ 人を使ひて之に問ふて曰く
⑤ 使人の之を問ふて曰く

問五

傍線部分(5)「自謂非客何也」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

106

- ① 客に非ずと謂へば何とならんや
- ② 客に非ずと謂ふといへども何ぞや
- ③ 自づおのから客に非ずと謂ふは何ぞや
- ④ 自らみづか客に非ずと謂ふは何とならんや
- ⑤ 自ら客に非ずと謂ふは何ぞや

問六

傍線部分(7)「莫非王土」の書き下し文として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

107

- ① 莫たれば王土に非ずして
- ② 莫たれども王土に非ずして
- ③ 王土に非ざる莫かれ
- ④ 王土に非ざるは莫く
- ⑤ 王土に莫きに非ず

問七 傍線部分(8)「豈有為人之臣、而又為之客哉」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

108。

- ① どうして天子様の臣下として、旅人のためにもてなしをすることができましようか
- ② どうしたら天子様の臣下として、旅人をもてなすことができましようか
- ③ どうしたら天子様の臣下でありながら、さらに旅人となることができましようか
- ④ どうして天子様の臣下でありながら、さらに旅人となりましようか
- ⑤ 何と天子様の臣下でありながら、他国に旅することができるとは

問八 傍線部分(9)「君使出之」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

109。

- ① 周の君は温に使者を出した
- ② 周の君はその温人に使者を出した
- ③ 周の君はその温人を温に向けて出国させた
- ④ 周の君はその温人を出仕させた
- ⑤ 周の君はその温人を釈放させた

問九

本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 世界が天子のものであるなら、温に住む者も周の臣民である
- ② いくら周王朝が衰えたといっても、旅人をもてなすくらいのことはずべきだ
- ③ 衰えた周王朝に代わり、温の人たちは世界の支配者になろうとした
- ④ 衰えた周王朝に代わり、温の人たちは自分たちで国を治めようとした
- ⑤ 子どもが周の臣民でないならば、親も周の臣民ではないのである